

盲導犬の仕事 ご存知ですか



市内で唯一の盲導犬「ネネ」。主人が安全に目的地にたどり着けるよう厳しい訓練を重ねてきました。

吉 田町吉田地区にお住まいの大島義廣さんのお宅に、盲導犬「ネネ」が新しい家族の一員として仲間入りしました。
平成8年に失明された大島さんは、平成10年に盲導犬の「ケビン」を迎え、昨年8月まで、大切なパートナーとしてともに過ごされてきました。

今年で2歳になるネネは、ラドールレトリバーのメスで、現在、大島さんは、指示どおりに歩くように練習したり、都会とは違った道路事情に慣らしたりしながら訓練をされています。
みなさんは、「盲導犬が左側通行であること」、「命令で動き、段差では止まること」、「厳しい適正評価により厳選され盲導犬になること」などご存知ですか？
大島さんは「盲導犬の役割や仕事について理解してもらいたいことが多くあります。機会があれば、福祉学習の一環として小学校や中学校などでも積極的にお話をしていきたい」と話されました。
連絡先は大島さん宅 ☎0854-74-0016まで。

ふるさと ウォッチング

“笑顔いっぱい・花いっぱい” 花と緑のまちづくり賞受賞

このほど三刀屋小学校が、一人一鉢運動や地域への花のプレゼントなど、花を通してのふれあい活動が評価され、第17回島根県花と緑のまちづくり賞優良賞を受賞されました。
同校の活動は、うめっこ班（全校縦割り班）・各クラス・学年別など児童らによる活動をはじめ、地域や保護者のボランティアなど様々な組織によって取り組まれています。
さらに、生活科や総合的な学習の時間では、ドライフラワー・押し花・リース作り等自分たちで育てた花をくらしに活かす活動も行っています。
7年連続の受賞おめでとうございま



一日入学や入学式では、1年生が植えたチューリップを飾ったり、卒業式会場を鉢花やプランターで飾ったり、四季を通じて学校行事の会場がみんなで育てた花でいっぱいになります。

11月26日

中四国少年レスリング選手権大会で準優勝



鳥 取県倉吉市で「第8回中四国少年レスリング選手権大会」が開催され、ユウガを加茂スポーツクラブ「レスリング部」のメンバーが好成績をおさめました。
同大会では、幼年の部20kg級で加茂レスリングチームの勝田竜太郎さんが準優勝、同階級で鳥目 青さんが3位入賞に輝きました。
また、11月19日に行われた「中四国中学生レスリング選手権大会（愛媛県松山市開催）」では、松本康太郎さんが38kg級で準優勝しています。
加茂スポーツクラブ「レスリング部」は、年々実力をつけており、中四国大会などで好成績をおさめています。大会でのさらなる勝利を期待しています。

わがまちの大木 市役所前のムクノキ（土手荒神）



県 道安来木次線沿い、雲南市役所前の土手に生えるムクノキをご存知ですか？このムクノキは、高さ10数メートル、幹の廻りが4メートル、樹齢は数百年と言われる大木で、その根元にはほこらが祀られ、地元で土手荒神と呼ばれ親しまれています。

もともとこの大木は、昭和50年頃に道路改良のため伐採という話もありましたが、地元住民の信仰の深さとともに、樹齢数百年とも言われる巨木の珍重性から伐採されることなく今日までその雄大な姿を残しています。
30年経った現在でも、土手荒神は地域住民の変わらぬ信仰を集め、ムクノキは四季それぞれの風情を表しています。
また、ムクノキのある市役所前から木次小学校前までの県道沿いの緑地帯にはサツキが植えられており、桜の開花時期を終える頃、ピンクや白の花を咲かせます。
最近、このサツキが枯れていることもあり、地元の八日市地域づくりの会では、このほど潤いのある環境事業として約70本のサツキを植栽されました。
市役所の位置を知らせる目印にもなっているムクノキとその大木へと導くサツキ群の姿は、後世に残すべき財産のひとつではないでしょうか。

12月23日

里山の環境と定住を考える ツーリズムINふれあいの丘



里 山の環境と定住を考えるイベントが大東中学校横の住宅団地「大東ニュータウンふれあいの丘」造成地を会場に開催されました。
主催したのは、大東町を主体にまちづくり活動を行う大東まちづくり研究会（村上修一代表）。近年、山で遊ぶことが少なくなった子どもたちに、里山での自然体験を通して里山の環境と地域での定住の楽しさを感じ取ってもらおうと企画されたものです。
当日は、好天にも恵まれ、小学生や中学生、家族連れなど55人が参加し、伐採残材による新割りや小枝によるランプシェードづくり、冬イチゴのリースづくりなどを体験しました。
また、昼食にはピザや燻製など薪ストーブを活用したアウトドアアクティビティも体験。参加者たちは、慣れないながらも里山でのひとときを満喫していました。